



- ・グローバルリーダーシップ研究所 研究所長、副研究所長 挨拶
- ・第6回IGLオンラインセミナー “My Way to Ochadai -Vision for Global Women Leaders-”
- ・第7回IGLオンラインセミナー “Discursive Approaches to Narratives of Leadership”
- ・第8回IGLオンラインセミナー 「なぜ女性リーダーが求められるのか～企業の女性育成策の今、そしてこれから」
- ・第9回IGLオンラインセミナー “Women in Leadership Positions in Global Multinational Companies”
- ・第10回IGLオンラインセミナー “Different cultures in the East Asia and different responses to the COVID-19”
- ・お茶大人材バンクをご活用ください
- ・国際シンポジウム「リーダーシップのあり方における文化的多様性を考える」
“Cross-Cultural Diversity in Leadership Styles”
- ・第23回国際日本学シンポジウム「近代日本と北欧・ドイツ文学・宗教・ナショナリズム」
- ・2021年度前期「若手女性研究者支援」プロジェクト
- ・前期グローバルリーダーシップ研究所関連授業報告
 - ・お茶の水女子大学論、グローバル・リーダーシップ実習I・II
 - ・未来起点ゼミ/未来起点研究
 - ・パーソナル・ブランディング、リーダーシップ国際演習I
- ・お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾 2021年度5月～7月 活動報告、2021年度9月～3月 活動案内
- ・グローバルリーダーシップ研究所のロゴマークを募集します！
- ・後期グローバルリーダーシップ研究所関連授業のお知らせ

グローバルリーダーシップ研究所 研究所長、副研究所長 挨拶

リーダーシップの考え方を組み直す

グローバルリーダーシップ研究所 研究所長
小林 誠



来年度からはお茶の水女子大学は新たな6年間の中期目標・中期計画を掲げることになり、研究所も別次元の展開を目指すことになります。

空虚な大言壮語はすべきでないですが、鋭利な構想を立て、たくさんの人たちを巻き込みながら、リーダーシップ教育・研究に進みたいと思います。

リーダーシップの考察では、変革型リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、あるいはコーチング理論やコンティンジェンシー理論など、さまざまな学問的追究があります。でも実はいずれにもじっくり来ない感触を持っています。リーダーのあり方を、たとえば民主主義の制度の中で考えると、新自由主義経済政策の文脈で捉えるとかいった、抽象度を下げたアプローチが有効なのではないかと考えています。

ともあれ、皆さんの議論のアリーナとして研究所が機能するよう精進することにします。

リーダーシップ研究の学際性

グローバルリーダーシップ研究所 副研究所長
本林 響子

グローバルリーダーシップ研究所に関わり始めて3年目になりました。その間、セミナーやシンポジウム等を企画・運営する中で、リーダーシップ研究という分野の多様性に触れ、驚きと感動を覚えることも多くありました。例えば、国際誌“Leadership”（2005年創刊、SAGE）ではほぼ毎年なんらかの特集が組まれています。そのテーマ設定からも、実に多彩な切り口から研究者が「リーダーシップ」という現象に迫ろうとしていることが見てとれます。

リーダーシップ研究から生まれた独自の理論に加え、他分野で蓄積された知見からも積極的に学ぼうという姿勢に、比較的若いこの分野の躍動感と、学際的な可能性を感じます。



これは裏を返せば、どの分野からもリーダーシップ研究に貢献が可能であるということでしょう。当研究所でも、それぞれが専門性を活かしつつ、リーダーシップ研究に資する活動ができるよう、環境を整えていければと思っています。

第8回IGLオンラインセミナー（2021年6月18日）

「なぜ女性リーダーが求められるのか ～企業の女性育成策の今、そしてこれから」

なぜ女性リーダーが求められるのか
～企業の女性育成策の今、そしてこれから

講演者
野村 浩子
Hiroko NOMURA
ジャーナリスト
東京家政学院大学特別招聘教授

2021年6月18日(金)16:40-18:10
オンライン開催 (Zoom Webinar)

主催 会：小林 誠 (グローバルリーダーシップ研究所 研究員(本学専任))
共催 対象：学生・教職員(一般)
問い合わせ：グローバルリーダーシップ研究所
<Mail> IGL-seminar@ocha.ac.jp
<HP> <https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/index.html>

2021年6月18日（金）16:40より女性活躍促進連携講座とグローバルリーダーシップ研究所の共催による第8回グローバルリーダーシップ研究所オンラインセミナーを開催しました。講演者は野村浩子氏（ジャーナリスト・東京家政学院大学特別招聘教授）であり、本学学生・教職員、高校生、一般を含め122名に参加いただきました。

でのライフストーリーとともに、一皮むけた経験（大きな成長につながった経験）について野村氏のインタビュー調査結果をもとに、お話しいただきました。

「PART III 女性活躍の壁となる『アンコンシャス・バイアス』」では、野村氏が実施した大手企業25社2500人アンケート分析結果（2018年実施）をもとに説明がなされました。

質疑応答では30件以上の多様な質問・感想が寄せられ、司会の小林誠教授（グローバルリーダーシップ研究所 研究所長）との軽快なやり取りで大いに盛り上がりました。グローバルリーダーシップ研究所のホームページに当日の様子を掲載しています。ぜひご覧ください。

<https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/event/d009703.html>

文責：内藤 章江
(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)



「PART I 女性リーダー、世界の中で日本は今」では、政治・経済分野の女性リーダーの海外・日本を比較した結果や日本企業における新しい管理職像を示す女性課長、男女雇用機会均等法世代の「生え抜き」女性執行役員などを紹介したうえで、企業が女性リーダーを求める理由、女性活躍を進める理由をお話しいただきました。

「PART II 日本企業の女性育成の現状を課題」では、女性リーダーそれぞれにおける初職からこれま

第9回IGLオンラインセミナー（2021年6月8日）

“Women in Leadership Positions in Global Multinational Companies”

Special Lecture Women in Leadership Positions in Global Multinational Companies

Speaker
Dr. Hai Kyong Kim

TUE 8th JUNE 2021 13:20-14:50

オンライン開催 via zoom

6月8日にゲストスピーカーとしてShelly H.K. Kim教授を迎えて、“Women in Leadership Positions in Global Multinational Companies”（グローバル多国籍企業の女性管理職）をテーマに特別講義を行いました。

Shelly H.K. Kim教授は初めに「リーダーシップのポジションで成功した女性にはどのような能力（知識、スキル、資質）があると思いますか？」という質問を参加者に投げかけ、それらの女性には皆、核となるリーダーシップ能力があるはずであると強調しました。

講義のあとは学生から沢山の質問がなされ、非常に活気のある特別講義となりました。リーダーを目指す過程で生じる様々な課題や困難を乗り越えるためのコンピテンシーが重要である等、学生はこの特別講義から多くを学びました。

文責：趙 成南
(グローバルリーダーシップ研究所 特別招聘教授)

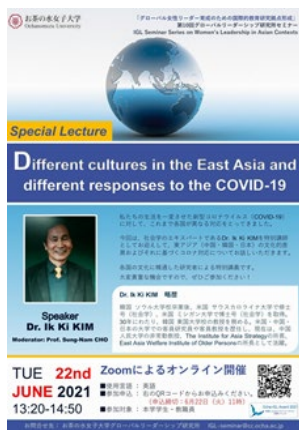
和訳：岡村 利恵 (同 特任講師)
黒澤 真紀 (同 アカデミック・アシスタント)

Shelly H.K. Kim教授はエグゼクティブ・コーチ、人材開発コンサルタント、リーダーシップ講師であり、著者でもあります。Shelly H.K. Kim教授は製造業など、様々な業界で30年以上にわたって人材開発の実務に携わっており、人材開発で修士号そして経営学で博士号を取得しました。

本特別講義では、GEヘルスケア、マクドナルド、ボルボ、P&Gなど、世界有数の多国籍企業でのエグゼクティブメンバーとしての豊富な経験に基づき、ビジネスシーンにおける女性のリーダーシップについて話をしてくださいました。

Successful Talents' 3P

Performance People Professional



6月22日に東アジア高齢者福祉研究所で所長を務めるKim Ik-Ki教授をゲストスピーカーとしてお招きして、特別講義“Different cultures in the East Asia and different responses to the COVID-19”（東アジアの異なる文化とCOVID-19に対する異なる対応）を開催しました。

COVID-19への対応に与える影響についても指摘し、東アジアの女性の地位の変化とその文化的背景についても考えるきっかけを与えてくれました。

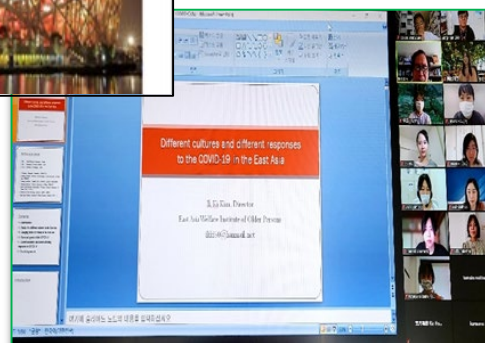
文責：趙成南
（グローバルリーダーシップ研究所 特別招聘教授）

和訳：岡村 利恵（同 特任講師）
黒澤 真紀（同 アカデミック・アシスタント）

Kim Ik-Ki教授は、中国、韓国、そして日本について比較データを示しながら、東アジアといっても、これらの国ではCOVID-19に対する対応は大きく異なっていることを紹介されました。

また、Kim Ik-Ki教授のさまざまな国の大学や研究機関（韓国の東國大、米国のミシガン大学ジェロントロジー研究所、日本の上智大学、中国の中国人民大など）でのご経験をもとに、東アジアのCOVID-19への対応に文化の違いがどのように影響したかを類似点と相違点を交えて説明されました。

Kim Ik-Ki教授は、社会学者および老年学者としての視点から、三つの国の具体的なデータ分析の統計やグラフを多く示して、東アジア特有の文化が



お茶大人材バンクをご活用ください

「お茶大人材バンク」とは、お茶の水女子大学の教職員の方が求める補助的業務（研究・実験・事務補助・イベント等、謝金払い又は非常勤職）を、本学の大学院生（博士前・後期課程在学学生）・卒業生・修了生の皆様へ紹介させていただくシステムです。

人材を求めている方、学内で働きたいと思っている方はぜひご活用ください。

【問合せ先】

お茶大人材バンク事務局（グローバルリーダーシップ研究所）
Email: jinzai-bank@cc.ocha.ac.jp

【採用・登用実績】

学部助手室アカデミック・アシスタント
附属小学校、授業補佐、実習準備等補助
学内イベント補助
データ入力
校正
実験補助

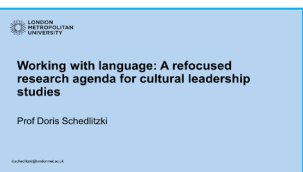
お茶大人材バンクHP↓



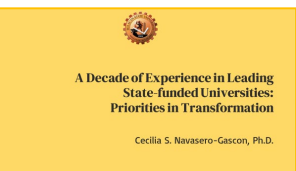
国際シンポジウム（2021年6月26日） 「リーダーシップのあり方における文化的多様性を考える」 “Cross-Cultural Diversity in Leadership Styles”

2021年6月26日（土）、IGL主催国際シンポジウム「リーダーシップのあり方における文化的多様性を考える」（Cross-Cultural Diversity in Leadership Styles）がオンラインで開催されました。

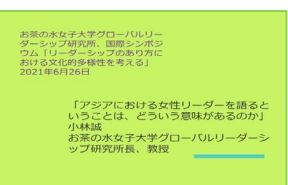
文化的背景が異なる人々と働くことも多くなってきた現代においては、リーダーシップのあり方についての文化差が顕在化し、思わぬ誤解を産む可能性があります。一方で、リーダーシップを含む文化差について、ステレオタイプに陥ることなく、動態性にも配慮しながら考えることは、思いのほか難しい課題でもあります。本シンポジウムでは、これらの点を踏まえ、グローバル化と多様性の時代において求められるリーダーシップについて検討しました。当日は、登壇者3名、ディスカッサント2名の計5名での議論となりました。



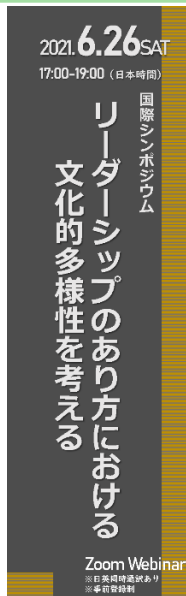
講演1として、リーダーシップ研究の専門家であり、リーダーシップと言語・文化的多様性についての研究も行っているロンドンメトロポリタン大学ドリス・シェドリツキ教授が「『ことば』からみるリーダーシップ研究：リーダーシップ文化研究の課題とは」と題し、講演を行いました。



講演2は、フィリピンのブラカン州立大学学長であり、過去10年以上にわたってフィリピンの大学での学長経験を持つセシリア・ガスコン学長による「変化の時代に何を優先するか：州立大学を率いた10年の経験から」というものでした。



そして、講演3として、お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所長小林誠教授が「アジアにおける女性リーダーを語るということは、どういう意味があるのか」と題して発表を行いました。



3名の講演の後、ディスカッサントとして、本学理事・副学長であり家族社会学の専門家である石井クンツ昌子教授、およびグローバルリーダーシップ研究所特別招聘教授かつ梨花女子大学校名譽教授の社会学者趙成南（チョ ソンナム）教授がコメントを行いました。そして、それを受けて各登壇者からの回答がなされるとともに、さらなる議論が行われました。

このシンポジウムは、グローバルリーダーシップ研究所の中心的テーマの一つである「アジアにおける女性リーダーシップ」研究のための枠組みを探る試みの一環でもあります。アジア内外での女性リーダーシップに関する知見を踏まえ、研究面と実践面の双方に目配りしつつ、アジアにおける女性リーダーのエンパワメントというミッションに向けての学びと対話の場となればと開催されました。総勢5名の研究者がそれぞれの立場から、発表及びコメントを行うことで、理論的及び実践的見地から充実した議論が行われました。

参加者は271名で、10代から60代まで幅広く、所属もさまざまであり、このテーマに関する関心の高さがうかがえました。

文責：本林 響子
(グローバルリーダーシップ研究所 副研究所長)



「お茶の水女子大学論」

今年度の「お茶の水女子大学論」は、昨年度同様、ZoomとMoodleによるオンライン形式で開講しました。本授業は、キャリアデザインプログラム基幹科目の中でも、導入的講座として位置づけられている授業で、主として1年生が受講しています。今年度も1・2年生を中心に受講人数は200名を超え、学部生向け科目群の中でも最も履修生の多い科目の一つとなりました。

本授業のねらいは、新入生がお茶の水女子大学の特色を知り、自らの将来をイメージしながら在学期間を有意義に過ごしてもらう点にあり、1) 学長によるオリエンテーション、2) お茶大の歴史、お茶大の特徴、学内の各種プログラムを知る、3) 企業や起業について学ぶ、4) お茶大卒業生のロールモデルから学ぶ、という4つの主要素から構成されています。毎回、オムニバス形式で各講師をお招きすることで、それぞれの授業が有機的に繋がりながらも、様々な視点から学ぶことができるようになっています。

佐々木学長による講演では、海外大学との交流提携締結の取り組みについての経験をお話いただくことで、学生へのエールを頂きました。

現在も新型コロナウイルス感染症の影響により通学機会が制限された1・2年生にとって、図書館や歴史資料館のインターンシップ情報は、

授業を通してしか得られない貴重なものであり、また大学院生ボランティアによる学習支援サービスの存在を周知する機会にもなっています。さらに、専修大学商学部の鹿住教授による「企業と起業」の基礎講義は、後半に設定された本学卒業生によるロールモデル講演へと繋がる導入的内容と位置づけられます。

ロールモデル講演では、民間企業や官公庁はじめ、フリーランス翻訳者、起業家、学校教員など、計6名の卒業生に講演頂きました。毎回質疑応答の時間を20~30分程度設け、さらに授業終了時に提出する感想コメントに対して、各講師からフィードバックをもらうことで、可能な限り双方向的な授業を実施することができました。

受講生の反響も大きく、具体的な仕事の内容を初めて知ることができたといった感想のほか、受講生各自が知識や学びを深めた様子が読み取れます。さらに大学時代の過ごし方、仕事に取り組む姿勢、ワーク・ライフ・バランス等、今後の就職活動、将来の職業生活を展望するうえで、大きな指針や示唆を得ることができる授業となりました。

文責：宝月 理恵
(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)

「グローバル・リーダーシップ実習Ⅰ・Ⅱ」

グローバル・リーダーシップ実習Ⅰ・Ⅱ(学部授業・前期後期不定期)では、プログラムの一環としてイタリアのミラノ近郊にあるパヴィア大学の女子カレッジ、Collegio Nuovoでの約10日間のリーダーシップ実習が行われます。このリーダーシップ実習は「ヨーロッパと日本をつなぐグローバル女性リーダー教育～『ソフトスキル』の習得」として日本学生支援機構の海外留学派遣制度に採択されており、今年度は約12名の学生派遣を予定しています。

今年度の授業開講に先立ち、英語での面接審査という形で履修学生の選考を行いました。面接では「あなたは自分自身のリーダーシップをどのように評価しますか」、「これまでの経験からリーダーシップには何が重要だと考えますか」等の質問を学生に投げかけました。

リーダーシップについてはこれから本授業で大いに学ぶこととなりますが、現段階での学生のリーダーシップに対する考え方も大変興味深く、それぞれの個性がしっかりと輝いていました。この授業を通じて学生たちが更なる成長をどのように遂げるのか、しっかりと向き合っていきたいです。

文責：岡村 利恵
(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)

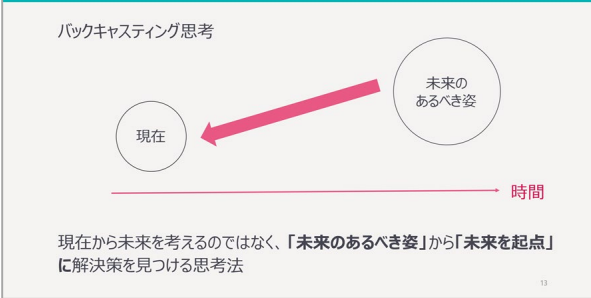


「未来起点ゼミ/未来起点研究」

株式会社ブリヂストンと本学の社会連携講座「未来起点ゼミ」（大学院では「未来起点研究」）は今年で3年目になります。

このゼミはお茶の水女子大学附属学校園の強みを活かし、高校から大学院までの共通科目として、ブリヂストン社員と本学教員が担当する新しい形式のゼミです。

1. 「未来起点」=バックキャストとは？



授業のテーマは10年後、20年後の未来を起点とし（バックキャスト）、自己変容と日本・世界の課題を提示することであり、学生同士や、外部講師、ブリヂストン社員や教員との対話によるアクティブラーニングによって、未来の社会価値創造を目指します。

前期は、自分の願望/軸を明確にし、未来を創る思考力、表現力、実行力を身につけるため、表現、プレゼン、システム思考、グラフィックレコーディングの専門家を招き、講義とワークショップを通して、実現したい社会と自分のやりたいことを具体的に描くことが目標です。

前期の受講生は高校生7名、大学1年生12名、2年生7名、3年生7名、4年生2名、合計35名です。また、2020年度「未来起点ゼミ」の受講生4名が、自身の提言内容の実践に加え、サポーターとして参加しています。コロナ禍で今年もオンライン講義となりましたが、学生同士の対話の機会を多く設けました。また、本年度は新しい試みとして、ブリヂストンから7名が4回ファシリテーターとして講義に参加し、学生の対話を活性化させ、学生と意見交換もしました。

後期は、グループ発表の形で「未来起点フォーラム」で提言してもらうことを目標にしています。

文責：郭麗娟
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）

コロナ禍で解決が加速した課題もある

【表】新型コロナウイルス感染症による社会課題の変化

6分野	コロナ禍で生じた新たな問題	コロナ禍で解決が加速したもの
ウェルネス	外出自粛などによる運動や移動の減少がフレイルのリスクを増大	オンライン診療の拡大で医療資源へのアクセスが改善
水・食料	観光産業や外食産業の低迷に伴い一次産業が大ダメージを受ける	需要が減った食品を消費者が生産者から直接購入するなど新しい消費形態が発生
エネルギー・環境	テレワーク拡大に伴い、家庭の消費電力が増大してエネルギー効率が悪化	分散型エネルギーへのシフトが加速
モビリティ	感染拡大防止のため移動が制限され、リアルな体験・満足感が求められる	テレワーク、eコマース拡大で移動しなくても需要が満たされ消費者の利便が増す
防災・インフラ	次のパンデミックに備えるため、感染症の拡大防止や早期発見が課題に	平常時でも災害時でも共通して利用できるサービスの概念が広がる
教育・人財育成	学校や自宅でのIT環境格差がそのまま教育格差に反映される	学校へのタブレット端末配布や通信網整備が進み、オンラインサービス開発も加速

出所：三菱総合研究所



「パーソナル・ブランディング」

本講座では、①内面：自分の強みや可能性を知る、②外見：自身の見た目は何を伝えているのかを知る、③伝え方：態度や表情・話し方などによる違いについて、理論と実践を交えながら学びを深め、自身の「個」を磨きつつ、自分の強みや可能性を意識的かつ強力に伝達し、記憶に残してもらう方法を学びます。受講生は62名であり、すべての授業をオンラインツール（Zoom）にて実施しました。

感想として「今まで自分の特性はなんとなくわかっているつもりだったが今回のワークを通して自分は意外と良い特性を持っているかもしれないと感じて自信がついた。プレゼンのテクニックを学ぶことができただけでなく自分の自信をつけるきっかけにもなり、受講してとても良かったと思っている。」「私はこの4月にパーソナル・ブランディングの授業を受けるまでどれだけ考えても自分とは何か、自分には何ができるのかが分からず、自分が将来やりたいことについても自分と向き合うことが怖くて考えようとしてきませんでした。しかしこの授業

を通して自分の弱い部分と向き合いながらも強みを見つけ、さらには自分が無価値だと思っていた過去の経験が今の自分を作り上げていることにも気づくことができました。大まかな目標も立てることができ、これから頑張っていく理由を1つ見つけることができました。私にとって非常に学びの多い充実した時間でした。」などを得ました。

講義に対する満足度も高く（とても満足87%、満足13%）、本講義を役立つ（とても役立つ89%、少しは役立つ11%）と回答し、講義を通じて考え方や行動が変わった学生（大いに変わった59%、少し変わった39%）が多数みられました。

文責：内藤 章江
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）

「リーダーシップ国際演習I」

前期に大学院授業である International Seminar for Leadership I（リーダーシップ国際演習I）を担当しました。この授業の目的はリーダーシップとジェンダーについての理解を深めることです。また、ポスト・パンデミックを意識して、アジアの女性リーダーシップモデル、リーダーシップの男女差、将来の女性リーダー像、リーダーシップとジェンダーに関するグローバルアジェンダの特徴など、さまざまなテーマを取り上げることで、リーダーシップに関する理論的分析と実践的知識の両方を習得することを目指します。

本授業では海外からのゲストスピーカーによる講義も行いました。学生は、英語で積極的にディスカッションやチームプロジェクト、意見発表を行い、リーダーシップとジェンダーといった国際的な問題について理解を深め課題解決の道を探りました。

ほとんどの講義はZoomで開催されましたが、メンタリングセッションとして学生とオフラインで何度かミーティングを実施しました。ここでは「何に関心を持っているか」、「研究テーマ」、「大学院生活の様子について」等を共有

し、女性が活躍するためにはどうすればよいかについて、刺激的なアイデアや考えを出し合いました。

文責：趙 成南
（グローバルリーダーシップ研究所 特別招聘教授）

和訳：岡村 利恵（同 特任講師）
黒澤 真紀（同 アカデミック・アシスタント）



【徽音塾がリニューアルしました！】

キャリアアップを目指す女性のために、2014年度に開講した「お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾」では、2020年度までに約260名の塾生が学びを深め、繋がりを、それぞれの立場で最大限の可能性を開花させてきました。

そして今年度、企業等で指導的立場に就くことを目指す女性に限らず、より多様な分野・立場でリーダーシップを発揮することを目指す女性を応援するために、「お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾」としてリニューアルを果たしました。

多様な女性の皆様の一助となりますようお願いしております。お気軽にご参加下さい！



石井クンツ昌子新塾長の告辞で開講式を迎えました。リニューアル後もオンラインの恩恵で多様な立場の方の、また法人のお申込みも増加しています。

5月「女性のエンパワーメントとリーダーシップ講座」は、初登場の「子どもとは何か～子どもと過ごし関わる中で問い続ける～」(宮里暁美講師)に13名、リピート開講の「キャリアの選択肢を広げる、付加価値を生む女性たちの仕事」(横田響子講師)に23名、「貴女のリーダーシップを磨く よりよいキャリアを積むために」(高田朝子講師)に23名、「多様性対応コミュニケーション」(吉田友子講師)に22名ご参加と大盛況で、自身の人生の再評価や起業への意欲等に繋がったという方もいました。

新規の6月～7月「お茶大プロフェッショナルレクチャー」(本学教員担当)は、「ゲノム医療時代の健康管理と遺伝カウンセリング」(三宅秀彦講師・

神原容子講師)に6名、「植物油と健康～氾濫する食情報に流されないために～」(藤原葉子講師)に10名、「すまいのデザインと社会」(元岡展久講師)に3名、「都市の記憶、都市の想像力」(小林誠講師)に7名と、こちらはゼミ的に手厚く、各講師の手法や研究の最先端等も披露されました。

ネットワーキングランチは5月「人生サバイバル時代を生き抜く？ 突然社内失業したらどうしますか」(田邊恵子氏)、7月「女性活躍？ いやいや、私くすぶってますから。繋がりの先に見えたもの」(山木しおり氏)と、以前より要望のあった、塾生が講師を務める企画を実施し、等身大のお話に共感が多く集まりました。

文責：森 暁子
(グローバルリーダーシップ研究所 特任アソシエイトフェロー)



お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾 2021年度9月～3月 活動案内

9月から3月に「お茶大プロフェッショナルレクチャー」を引き続き8科目、11月から2月に「ビジネス講座」を4科目開講します。

前者はリーダーシップを発揮するための深い知識と高度な教養を本学教員から学ぶ講座、後者は一般的なビジネススクールで学ぶ内容を厳選した講座です。昨年度までの科目やネットワーキングランチ等で人気を博した講師が満を持して再登場するほか、新規の講師も複数登場します。専門性が高く、SDGsやCSVに応用可能な科目や、アントレプレナーシップを刺激する科目の数々にもご注目下さい。

女性同士の気軽な交流とネットワーク構築のための、オンライン・ネットワーキングランチの企画も引き続き随時行います。こちらは就業経験のある女性であれば、どなたでも無料で参加いただける催しです。毎回様々な講師によるミニレクチャーで多様な視点を得ながら、画面越しに飲食して歓談します。最新情報は徽音塾HP、Twitterをご参照下さい。

文責：森 暁子
(グローバルリーダーシップ研究所 特任アソシエイトフェロー)

2021年度微音塾（9月～3月）開講予定表

	開講日	講師	タイトル	申込締切	入金締切
9月	4日（土）	小坂 圭太	P09「近代精神の器としてのピアノ」	8/30 （月）	9/2 （木）
	11日（土）	水村 真由美	P10「ダンスの魅力を科学する～運動を楽しむと健康になる～」	9/6 （月）	9/9 （木）
10月	16日（土）	由良 敬	P11「遺伝子からみえる疾患のメカニズム」	10/11 （月）	10/14 （木）
	23日（土）	森 義仁	P12「男女共同参画と途上国支援に関する科学・技術コミュニティの変容の事例」	10/18 （月）	10/21 （木）
11月	6日、13日（土）	神原 理	B13「マーケティング入門」	11/1 （月）	11/4 （木）
	20日、27日（土）	露木 恵美子	B14「経営戦略の基礎」	11/15 （月）	11/18 （木）
12月	4日、11日（土）	櫻井 康弘	B15「会計基礎力を身に付けるー取引記録の仕組みと企業活動の成績表ー」	11/29 （月）	12/2 （木）
1月	15日（土）	佐々木 元子	P16「サステナビリティを目指した遺伝リテラシー」	1/10 （月）	1/13 （木）
	22日（土）	千葉 和義	P17「ヒトデとヒトでの生物学」	1/17 （月）	1/20 （木）
1～2月	1月29日（土）、 2月5日（土）	汐崎 浩正	B18「これからの女性リーダーが知っておきたい法律」	1/24 （月）	1/27 （木）
2月	19日（土）	長谷川 直子	P19「身近な地域で災害に関する地図を作ってみよう」	2/14 （月）	2/17 （木）
3月	5日（土）	大瀧 雅寛	P20「平時と災害時における水の確保（質と量の両面から）」	2/28 （月）	3/3 （木）

※「P」…お茶大プロフェッショナルレクチャー 「B」…ビジネス講座
 ※1科目（1日）からご受講いただけます。
 ※入金確認のご連絡は、基本的に、12回ある入金締切の翌日になります。

グローバルリーダーシップ研究所のロゴマークを募集します！

グローバルリーダーシップ研究所では、本研究所を象徴するロゴマークを募集します。最優秀賞に選ばれた作品は今後研究所の公式ロゴマークとして使用されます。あなたの「グローバル女性リーダー」への想いをロゴマークとして表現してみませんか？「デザインが好き！」、「イラストが得意！」、「大学で何か形に残ることをしてみたい！」と考える人はこの機会をお見過ごしなく。

グローバルリーダーシップ研究所は、あなたの自由でクリエイティブな作品をお待ちしています。

【募集期間】 8月1日（日）～9月30日（木）

【結果発表】 選考結果は10月中頃までに応募者に連絡し、その後、研究所のホームページに掲載。

【応募資格】 本学の学生（学部生・大学院生）

【賞品】 最優秀賞1作品（賞品としてAmazonギフト券3万円分を贈呈）

※その他の応募作品には参加賞を贈呈。

【詳細はこちら】



9/30
締切

グローバルリーダーシップ研究所

ロゴマーク 募集中

グローバルリーダーシップ研究所では、本研究所を象徴する「ロゴ」マークを募集します。これは国際イベントでもなるような目を惹きつけるロゴマークです。
 あなたの「グローバル女性リーダー」への思いを「ロゴ」マークとして表現してみませんか？
 「デザインが好き！」、「イラストが得意！」、大学で何か形に残ることをしてみたい！と考える人はこの機会をお見過ごしなく。
 グローバルリーダーシップ研究所は、あなたの自由でクリエイティブな作品をお待ちしています。

#賞品あり #Be Creative!

詳細はこちらから

募集対象：本学の学生（学部生・大学院生）

後期グローバルリーダーシップ研究所関連授業のお知らせ

グローバルリーダーシップ研究所では、2021年度後期に以下の授業の開講を予定しています。
 学生の皆さんの積極的な受講を歓迎します。〔CDP：キャリアデザインプログラム基幹科目の授業です。〕

授業名		開講時期	内容
女性のキャリアと経済 [21N0092] (学部)〔CDP〕		火曜 9・10 限	社会の第一線で活躍中のゲスト講師の講演から、仕事やキャリア展開を考える授業です。
ファシリテーション [21N0093] (学部)〔CDP〕		火曜 7・8限	企業から出された課題に対し、グループで解決案を策定し、プレゼンしてもらいます。このプロセスを通してファシリテーションの手法を身につけます。
女性のキャリアと法制度 [21N0094] (学部)〔CDP〕		水曜 5・6限	ジェンダー視点から「女性の労働・就労」や現代のライフコース選択に関わる様々な問題について分析・考察し、働く女性に関する法制度について学ぶとともに、自分自身のキャリア形成について考えます。
ダイバーシティ論 [21N0095] (学部2～4年生)〔CDP〕		火曜 7・8限	特に組織におけるダイバーシティに焦点を当てながら女性のリーダーシップについても学びます。ダイバーシティを推し進めるにはどのような「仕組み」が有効なのか、アクティブ・ラーニングやインタラクティブな授業を通じて履修生と一緒に考えます。
未来起点ゼミ (学部)	II [21N0221]	木曜 9・10 限	「未来起点ゼミⅠ」での自己の提言内容の実践 ・自己の提言内容の策定・修正・実践 ・自身の活動報告(未来起点フォーラム)
	IV [21N0223]	不定期	「未来起点ゼミⅡ」の支援 ・授業のサポート ・ゼミ生と対話・未来起点フォーラムのサポート
グローバル・リーダーシップ実習Ⅱ [21B2100] (学部)		不定期	授業で学んだリーダーシップスキルを実践できるように、大学の内外で提供される様々な機会を活用し、社会やコミュニティとのつながりのなかで国連サミットが掲げるSDGsのような現代的諸課題を意識しながら自らのテーマを見出し、自己の成長にとどまることのない、より広い意味でのリーダーシップを探求します。
アカデミック女性リーダーへの道 (実践編) [21S0132] (大学院)		集中	研究申請(学振特別研究員他)およびプレゼンテーションの知識やスキルを高める授業です。
キャリア開発特論(基礎編) [21S2006] (大学院)		不定期	外資系コンサルティング会社のアクセンチュア株式会社との協力で行う、仕事・キャリアについて学び、考える講座です。
リーダーシップ国際演習Ⅱ [21S0263] (大学院)		火曜 5・6限	特別招聘教授Cho Sung-Nam先生による授業です。リーダーシップとジェンダーについて学び、理論的分析と実践的知識の両方を理解することを目的としています。